

# NPO 法人 野田文化広場

代表者	加藤純章
所在地	〒278-0037 千葉県野田市野田 370-8 野田市郷土博物館・市民会館
設立年月日	2005年5月13日
URL	<a href="http://www.noda-muse.or.jp/">http://www.noda-muse.or.jp/</a>

## 【設立趣旨】

野田市は千葉県北西部に位置する江戸川と利根川にはさまれた水と緑のまちであり、江戸時代から醤油醸造によって栄えてきました。平成15年には関宿町と野田市が合併して人口15万人の市となり現在に至っています。NPO法人野田文化広場は野田市民を中心に約30名で設立した「文化によるまちおこし」を標榜する団体です。また、まちづくりはひとつと捉え、平成19年度より指定管理者として野田市郷土博物館と野田市市民会館の2施設を一体的に管理運営するなかで、市民のキャリアデザインを支援する各種の活動を実施しています。

## 【沿革】

野田文化広場は平成17年に法人格を取得しました。運営に関わっているのは多種多様な人たち（僧侶、地域の会社経営者、教員、福祉団体代表、主婦、ガイドボランティア団体代表など）で、設立時より寺子屋講座、観月会、山中直治コンサートなどの活動を続けてきました。また平成19年には野田市郷土博物館と野田市市民会館に指定管理者制度が導入されたのを受けて応募し選定されました。管理運営対象である野田市郷土博物館（昭和34年開館）は、郷土の歴史資料、特に醤油関係資料を豊富に所蔵する博物館です。また野田市市民会館（昭和32年開館）（写真1）は元醤油醸造家・茂木佐平治家の屋敷を市民の利用に供する施設として活用しており、貸部屋を行っているほか、純和風建築と庭園が見所で、建物は国登録有形文化財、庭園は国登録記念物となっています。



写真1 野田市市民会館

## 【活動目的】

NPO法人野田文化広場は、地域の文化資源に関連する調査研究や教育研修ならびに世代を超えた交流の場の提供などの活動を行っており、人びとの自己実現や生活の質的向上、子どもたちの健全育成に寄与することを目的としています。また、地域のまちなみをひとつの博物館に見立て、キャリアデザイン教育などによる中心市街地の活性化や地域の文化資源の発掘、文化情報の発信といった活動を支援し、地域固有の自然環境や歴史文化を後世に伝えることを目指しています。

## 【活動内容】

①寺子屋講座…「まちの仕事人講話」と「芸道文化講座」の2種類があり、市民会館を会場に毎月日曜日に開催しています。講師は市民を中心に依頼するほか、講座の最後には懇談の時間を設け、市民同士のコミュニケーションの機会としています。平成21年9月現在で開講数は130回を超えました（写真2）。



写真2 寺子屋講座

②観月会…毎年、仲秋の名月の頃にあわせて市民会館で開催しています。演奏や演舞などの催し物を行うほか軽食や和菓子を提供して市民交流の場としています。

③山中直治コンサート…郷土の童謡作曲家である山中直治の楽曲の普及と市民交流を目的としたコンサートです。市民グループ「山中直治を歌う会」が出演して、平成19年度より博物館のグランドピアノを利用して行っています（写真3）。



写真3 山中直治コンサート

④野田市郷土博物館・市民会館指定管理事業…指定管理者として、博物館資料の収集・整理・保管・調査研究、市民コレクション展や市民公募展といった市民参加型の企画展、特別展、キャリアデザイン連続講座、自分たちの住んでいる地域の文化や歴史に目を向けて自主的に調査研究活動を行う自主研究グループ育成講座、ミュージアム・コンサート、博物館のホームページの作成、ニュースレターの発行などに取り組んでいます。春の企画展では考古遺物や民具類を展示するなど小学校の団体見学に対応しています（写真4）。市民会館では貸し部屋事業を行っており、市民のサークル活動や市教育委員会主催のオープンサタデークラブの会場として提供していると同時に、建物と庭園の見学についても積極的に受け入れるようになりました。この館内の案内（ガイド）は市内のガイドボランティア団体「むらさきの里 野田ガイドの会」と連携して行っています（写真5）。



写真4 小学生の企画展の見学風景



写真5 むらさきの里 野田ガイドの会による解説風景

こうした活動の結果、博物館の入館者数は平成18年度11,497人から比較して平成19年度には22,642人と約2倍となり、平成20年度以降も増加傾向にあります。

## 【活動上の課題と今後の展望】

活力のあるまちづくりのためには、市民一人一人が自らの働きを自覚、そして他者を理解し、キャリア（生き方）の設計および再設計をします。そのうえで地域コミュニティの一員としての自覚をもちコミュニティにおいて自らの役割や責任を果たすことが望めます。そのためにはこれまでの博物館の諸機能に加えて市民交流を促進するための事業を行う必要があります。博物館と市民会館は、「市民のキャリアデザインの拠点」としてさまざまなコミュニティに所属する人たち同士を「文化」によってつなげるハブの役割を担いますが、それを効果的に実現できる事業計画が望まれています。博物館では平成22年度に常設展を市民が地域の歴史に親近感を持てるようなものとするリニューアルを予定しています。また昔のくらしの生活用具などの資料収集、博物館内のサービス向上のためボランティアの導入などを新たに計画して進めています。一方市民会館は、建物の保存と活用の両立や、貸部屋機能を維持した見学者への対応方法を検討することが課題といえます。